

セルフメディケーション特論

責任者・コーディネーター	臨床薬剤学講座 工藤 賢三 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床医化学講座、分子細胞薬理学講座、創剤学講座、臨床薬剤学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 13.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

地域の薬局においては、処方せん調剤のみならず、来局者や在宅患者の健康状態や症状を評価し、一般用医薬品による軽医療に係るセルフメディケーション機会の提供、適切な受診勧奨、また地域における健康増進・管理等に関与することも薬剤師の重要な役割となっている。セルフメディケーション特論では、来局者（あるいは在宅患者）の状態を薬剤師自身が適切に判断し、一般用医薬品などで対応が可能な疾患に対しては適切な医薬品を選択できるようにセルフメディケーションの支援に必要な知識を習得し応用できる実践力の基礎を身に付ける。

・一般目標（GIO）

薬局等において来局者や住民の健康状態や症状を適切に評価し、適切な対処を行うために、セルフメディケーションに必要な臨床判断による対応の選択（トリアージ）およびセルフメディケーションに係る一般用医薬品などの使用における知識や技能を習得する。また、医薬品添付文書の実践的な活用法を学ぶ。

・到達目標（SBO）

1. 全身状態の評価とトリアージについて説明できる。
2. 頭痛及び発熱についての臨床評価ができる。
3. 咽頭痛及び咳・痰についての臨床評価ができる。
4. 腹痛及び腰痛についての臨床評価ができる。
5. 下痢及び便秘についての臨床評価ができる。
6. 倦怠感・疲労感についての臨床評価ができる。
7. 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を説明できる。
8. 主な一般用医薬品を列挙し、使用目的や特徴について説明できる。
9. 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品等について説明できる。
10. 健康維持のための薬と食について説明できる。
11. 医薬品添付文書に記載されている項目の意味について説明できる。
12. 医薬品添付文書から患者に応じた情報を把握できる。
13. 医薬品添付文書の情報から薬物動態等を予測できる。

・講義日程

(矢) 東 201 2-A 講義室、東 202 2-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/17	水	3	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	全身状態の評価とトリアージの実際、頭痛、発熱
4/24	水	3	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	咽頭痛、咳・痰、腹痛、腰痛

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/15	水	4	分子細胞薬理学講座	弘瀬 雅教 教授	下痢、便秘、倦怠感・疲労感
5/22	水	4	臨床薬剤学講座	武政 文彦 非常勤講師	一般用医薬品 1
5/29	水	4	臨床薬剤学講座	武政 文彦 非常勤講師	一般用医薬品 2
6/5	水	4	臨床薬剤学講座	武政 文彦 非常勤講師	サプリメント、漢方など
6/12	水	4	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	薬と食
6/19	水	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	添付文書の見方と応用
6/26	水	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	セルフメディケーションと医薬品情報

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬剤師のトリアージ実践ガイド	佐仲 雅樹	丸善出版 (定価 3,200 円)	2012
教	病態知識を基礎とした一般用医薬品販売ハンドブッケーセルフメディケーション・トリアージ	望月 真弓、武政 文彦 監修	じほう (定価 3,800 円)	2011
参	一般用医薬品学概説 第2版	斎藤 洋、他編	じほう	2006
参	薬学生・薬剤師のための知っておきたい一般用医薬品 第2版	日本薬学会編	東京化学同人	2000

・成績評価方法

講義の出席状況、定期試験、小テスト、レポート等から総合的に評価する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック CF-W9JWECDS）	1	スライド投影